

江戸の恋 - Romance in Ukiyo-e -

太田記念美術館（神宮前） 2022.01.05～01.30

「浮世絵」にはあらゆる恋の形を見ることができ、一流絵師が描く“見る者をうっとりさせるような美男美女の恋”“心中や不義密通”“恋の末の殺人”等実際の衝撃的な事件を脚色した歌舞伎や浄瑠璃の愛憎劇も恰好な題材となっている。

本展は、純愛、悲哀、危険な恋—江戸の恋バナを集めた、恋という普遍的なテーマを通して「浮世絵」を紹介して、甘美な愛の語らいに心をときめかせ、危険な恋の行く末をハラハラと見守る、そんな恋愛物語を楽しみ醍醐味を味わえる。

「鈴木春信」(1725?～70)は、錦絵の創始期に活躍した絵師であるが、人気絶頂時に急逝したため大衆に知られるようになってからは2年程の活躍であった。

鈴木春信 《つれびき》 1767(明和4)年 中判/多色彩錦絵



江戸時代は、一本の横笛をともに吹く「並笛図」が二人の愛情の深さを示す画題として知られ、本作は優美な人物像で一世を風靡した画伯の優品作品のひとつである。

画面は、カキツバタの咲く水辺で身を寄せ合い一棹の三味線を弾く若い男女は、顔だけでは判別しづらいが、右側が元服前の男性特有の髪型の若い男性が弦を指で押さえ、女性がバチで音を鳴らしている光景である。

鈴木春信 《雪中相合傘》 中判錦絵 1767(明和4)年頃



雪が降り積もるなか、若い男女がいたわり合うように顔を寄せ、一つの傘を互いに持ち合って歩いていく様子である。

黒と白の衣装の対比が印象的で、シンプルなように見えるが、女の白い着物の地模様、男の黒い衣装の縮緬の質感、さらに地面の雪のふっくらとした感じがあり、画面の紙に凸凹をつけて表す独特の「空摺」が丁寧にほどこされている。

相合傘には心中に向かう哀切なイメージもあり、春信の恋の図を代表する印象的な作品である。

浮世絵に描かれた恋のなかでも人気を誇ったのが、愛らしい姫君と凛々しい若衆、人気の遊女と勇ましい侠客など理想化されたカップルで、なかでも画伯は時に古典に題材を取ることで画面をよりロマンチックに仕上げている。

時代を超えて鑑賞者を夢見心地に誘う、恋人たちの姿が見物である。